

## 薬学部

I	教育の水準	.....	教育 6-2
II	質の向上度	.....	教育 6-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生十数名に対し1名のメンター教員を配置し、学修ポートフォリオを活用してサポートを行う学生支援体制を構築しているほか、成績不良学生にはカウンセラーと連携してメンター教員が随時面談を行っている。また、学部長が学生代表から直接要望や意見を聞く「学生との懇談会」を毎年開催している。
- 平成24年度の文部科学省大学間連携共同教育推進事業「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」の採択により、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点形成を目指しており、平成27年度の間評価ではS評価となっている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成23年度から薬学科6年次に、医学部との共修による高次臨床実務実習Ⅱ「離島実習」を長崎県五島市及び新上五島町で実施しており、チーム医療を担う薬剤師の養成に取り組んでいる。

以上の状況等及び薬学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成23年度から平成27年度における薬剤師国家試験の合格率（新卒者）は、77.8%から92.9%の間を推移している。
- 学生による授業評価アンケートにおける肯定的な回答の割合は、専門教育の授業目標の達成度は平成18年度の約52%から平成27年度の約67%、授業の満足度は平成18年度の約65%から平成27年度の約75%となっている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 23 年度から平成 27 年度における薬学科卒業生の就職先は、49.7%が病院薬剤部となっており、そのうち 85%が九州の大学病院や地域の中核病院に就職している。また、平成 23 年度から平成 27 年度における薬科学科卒業生の大学院進学率は 91.1%となっている。

以上の状況等及び薬学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 24 年度の文部科学省大学間連携共同教育推進事業の採択により、長崎県内の国公私立 3 大学（長崎大学、長崎県立大学及び長崎国際大学）で構成される薬学と看護学の連携に、医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の下、県内の 4 自治体、12 職能団体及び 1 法人と連携する「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」を実施している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センターにおける創薬科学教育支援等により、平成 23 年度から平成 27 年度における薬科学科卒業生の大学院進学率は 91.1%となっている。また、薬学科学士の学会発表数は、平成 24 年度の 17 件から平成 27 年度の 64 件となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。